

# 福井せいじの 県政レポート

2012年 No.2  
7月発行

福井せいじ事務所

〒020-0015 盛岡市本町通 1-9-39

電話 / 019-651-5125

FAX / 019-651-5135

E-mail fukuijimusho@gmail.com

ホームページ www.fukuseiji.jp/

## 復興工事は県内建設業者に発注を!!

### 3月議会予算特別委員会において会派を代表して総括質疑を行う!!

県議会では一般質問できる機会は1年に1度です。しかし予算・決算の特別委員会では会派を代表し総括質疑と言い、知事や副知事に直接質問をする機会があります。

平成24年度は復興元年。一刻も早く被災地が復興できる体制を作り、同時に県内経済が活性化する仕組みを作りたいと考え会派を代表し質問させて頂きました。20分足らずの質問でしたがその一部を御紹介します。

#### 平成24年3月予算特別委員会 (3月5日 総括質疑)

**質疑** 県の復興基本計画は8年となっているが、被災地の住民は8年も待ってられない。もっと短期間で復興基本計画を終了するようにすべきと考えますが、知事に御所見を伺いたいと思います。

**答弁 (達増知事)** 県の復興基本計画は期間8年間でありまして、最後の2年は、さらなる展開を図っていく期間という位置づけであり、6年後の本格復興期間の終わりにあつては大方の復興を遂げるという内容となっております。

復興実施計画は、復興の基盤づくりを集中的に展開することとした平成23年度から平成

25年度の間、計画策定段階で想定し得る事業を掲げております。

今後、国の新たな予算措置や制度の創設など、計画の策定後に生じたさまざまな社会的変化、復興の状況等を踏まえて、迅速な復興が図られるよう、事業の変更や新たな事業の追加など、必要に応じて県の計画についても所要の見直しを行ってまいります。

**質疑** 私は、今震災復興旧工事は県内事業者の育成の機会でもありと考えています。今震災復興旧工事における大規模或いは特殊技術を要する工事においても、大手ゼネコン単独の工事発注ではなく、必ず地元企業とのJVを前提とした入札を行ってほしいと考えますが、当局のお考えをお示しください。

**答弁 (加藤総務部長)** 大規模な工事でもゼネコン等県外業者がJVの代表者となる場合でありまして、WTO協定対象工事や特殊な工事を除きまして、県内業者を構成員に含めることを工事発注の際の条件としております。

また、こういうふうな場合、県外の大手と県内業者のJVとなる場合でございますが、県内業者育成の観点から、当該工事に求める施工実績要件を満たす県内業者が少ないときには、要件を緩和する取り扱いをしております。

して、県内事業者の機会の確保に留意しているところでございます。

**質疑** 前例のないほどの多くの工事が集中的に発注され、コンクリートが不足すると考えられるがコンクリートの調達について当局はどのような対策をお考えか?

**答弁 (上野副知事)** コンクリートの供給不足対策についてのお尋ねでございますが、沿岸広域振興局管内などの地域単位で、国、県、市町村などの発注者と、建設業者、資材納入業者など業界団体との間で情報交換の場を設けることとしておりまして、必要な対策をきちんと検討してまいります。

**質疑** 関係の方々や調整しながらということですが、私は調整して済む問題だと思えません。そこで例えば、県

当局が主導して大規模なプラントを増設し、そこで供給体制をつくるというようなことは考えられないでしょうか。

**答弁 (上野副知事)** 委員御指摘の話との関連でもう少し申し上げますと、今後考えられる対応策といたしまして、大規模な需要を伴う発注工事が、必ずだと思われまじけれども、その場合の専用の製造プラントの設置をどうしていくのか、あるいは隣接県などから骨材購入が急増する場合の実勢に合わせた適正な積算価格の設定の問題ですとか、あるいは業界団体に対して、需要量の増加が見込まれる地域に業界団体が新たな製造プラントを建設した場合の実勢に合わせた適正な積算価格の設定、こうした点についてよく対応策を練っていかうと思っております。

**質疑** 私は、県主導のプラント建設という話もしましたが、民間業者が新たなプラントを増設するといった場合には、さまざまな支援をしながら、コンクリートの供給量を確

## 地域課題に挑む 県の遊休資産売却について

岩手県は今、県財政の改善の一環として遊休資産の売却を進めている。

加賀野にある職員公舎や城南地区にある盛岡短大跡地、中野地区にある県職員独身寮などもその対象になっている。



県職員の中野独身寮 (県庁まで車で5分の住宅街立地)

私は遊休資産の売却自体に反対するものではない。しかし県の遊休資産の中には、資産価値として利用価値の高い資産があると考える。

前回の県政レポートにも書いたのだが、県立短大跡地の立地場所は盛岡市の中心住宅街にあり、住民からは地域施設に役立ててほしい旨の要望が盛岡市に出されている。

また他の方々からは、市立図書館を誘致し図書館を中心に高齢者向けの文化活動を展開できる施設や予防医学を中心とした体育施設などをつくり、さらに全戸太陽光発電住宅にしたり、ハウスシェアシステムを導入したり、少子高齢社会に適応したスマートエリアをつくり、今後の県の町づくりのモデルとするべきだという意見も出ている。

保するという状況を県がつくり上げることが大切だと思います。ぜひとも、そういった支援も含めて考えていただきたいと思いが、いかがでしょうか。

**答弁 (上野副知事)** 委員が御指摘されたような点も十分踏まえまして、コンクリートの供給不足というような事態が復興の支障にならないように、きちんと考えていきたいと思っております。

**質疑** 県の役割というのは、発注すればそこで終わりというわけではないと私は思っております。

特に、今回の震災関連、復旧工事においては、最後の最後まで、完成するまで私たちが見届けなければいけない。そのために、発注した後も、いかに資材あるいは働き手が確保されるか、そういったことも何とか支援していきたい。そしてまた私たちも応援していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

立地し、病院施設を中心とした地域活動の拠点にできないかという意見も出ている。単なる売却では買い手の思惑によって、その地域の特性やその土地の持つ良さを壊してしまうこともある。

ここで私が提案したいことは、遊休資産は最初に売却ありきと考えるのではなく、振興局を中心に地域特性を踏まえ戦略的に地域活性化を図り、県全体の先行事例となるような活用方法を計画し当該市町村や地域住民とともに推進してほしいという事である。

盛岡短大跡地や中野独身寮は大きな可能性を持つ県の資産である。今後も地域に住む方々と県・市が一体となって、地域活性化を図る仕組み作りに取り組んでいきたいと思う。

## 再生可能エネルギー調査特別委員会 副委員長に就任!!

今、原発に代わる電力として最も注目されている、再生可能エネルギー。にかかわる調査提案をする委員会が設置され、副委員長に就任しました。岩手を再生可能エネルギー発信の基地にすべく頑張ります。



再生可能エネルギー調査特別委員会 副委員長に就任!!

鶏糞使用ボイラーの見学



# 「時は命!! 人と金と権限!!」 「遅々として進まない復興?!!」

東日本大震災発災以来、当初は復興食堂というボランティアで、昨年9月の選挙後は議員として、被災地を何度も訪れ様々な方と活動し話をしてきました。被災地にある瓦礫の山も小さくならない。いつになったら隣を気にしない部屋に住めるのだ。どこで商売を再開できるのだ。……復興は遅々として進まない。

40年分の仕事が目の前にある。7年分の仕事を1年間でやらなければならない……。国土調査、埋蔵文化財調査、区画整理事業、グループ補助金申請、防災集団移転事業、漁港復旧、湾口防波堤復旧、復興道路整備……皆が一生懸命に仕事をしているが、立ち足だかっている大きな壁がある。林を切りひらき宅地にしようと計画しても保安林解除ができない。農地を購入して宅地造成しようとしても農地転換できない。

2012.04.19 Thursday

## 今は戦時!!! 復興特別委員会 (釜石・大槌)

4月19日県議会復興特別委員会で被災地視察。釜石・大槌を訪問。

まちづくりの計画図が全く見えてこない。「いつからどこに住む事が出来るのか?」「いつどこに店を開けることができるのか?」答えは返ってこない!!

時・場所が見えないままだと、多くの人が被災地から出て行ってしまおう。

実際、被災地で商売をしていた人が盛岡に出店し頑張っている。新天地で軌道に乗り、いつの日か被災地の復旧が完了した時元の場所に戻るかといえは、もしかしたら帰らないかもしれない。だからこそ一刻も早く「まちづくり」を始めなければならぬ。土地の買い上げが決



\*大槌の港、浮かんでいるのが「ひょうたん島」(かさ上げも応急のみ)

土地を購入して民宿を建てようとしたが住宅街指定の際には取り壊せ。これまでの平常時における様々な規制・制度・法律が、震災という戦争状態にある被災地をがんじがらめにしている。戦場では生き残るに精一杯、毎日が不安でストレスも溜まる。仕事も手につかない。被災者の生活は変わらないまま、時間だけが進んでいく。時は命!!! 制度の元締めである国に対して、戦時である事を訴え、一番現場を理解している地元で制度変更の権限委譲要求をしていく。新たな仕事をするときには、人と金と物が必要だ。被災地に今必要なものは、人と金と権限だ。時は命!!! その時を稼ぐために、私は「人と金と権限」を求める仕事をします。

土地を購入して民宿を建てようとしたが住宅街指定の際には取り壊せ。これまでの平常時における様々な規制・制度・法律が、震災という戦争状態にある被災地をがんじがらめにしている。戦場では生き残るに精一杯、毎日が不安でストレスも溜まる。仕事も手につかない。被災者の生活は変わらないまま、時間だけが進んでいく。時は命!!! 制度の元締めである国に対して、戦時である事を訴え、一番現場を理解している地元で制度変更の権限委譲要求をしていく。新たな仕事をするときには、人と金と物が必要だ。被災地に今必要なものは、人と金と権限だ。時は命!!! その時を稼ぐために、私は「人と金と権限」を求める仕事をします。

以下、普段の活動の一部を紹介します。

まったら俺は盛岡に行くと言った人もいた。

どんどん被災地から人がいなくなる。住民票ベースではなく、実際に町に残る人は何人になり、その人達がどのような「まち」を望むか? 早く「まち」の姿を描く事が大切だ。時間との戦いである。戦時に「国から、県から、予算が来ない」と待っているのか? 山を削り、土を盛り、皆と一緒に「まち」を作る!



\*大槌、仮設「復幸きらり商店街」

時が見えて、未来が描ける。場所が見えて、夢が描ける。人が見えて、希望が描ける。天地人を活かすのがリーダーの仕事。私も頑張ります!!

## 「まち」が動き始めた。

1月31日、三ツ石神社トイレ作りワークショップ開催。三ツ石神社は近年「岩手の県名由

来」や「さんざ発祥の地」という事で、修学旅行生や観光客が頻りに訪れます。しかし神社や

近辺にもトイレがなくその整備が望まれていました。周辺町内会や奉賛会から強い要望があり平成19年以来、地元町内会・公園みどり課・観光課と共に取り組んできたプロジェクトです。神社付近に適地が見つかり、地元の希望を生か



した整備とその維持管理などを決めるためにワークショップを開催しました。

2月1日は、盛岡市が推進する「協働によるまちづくり」のモデル地区に選ばれた、私が住む城南地区のまちづくりワークショップに参加。賑わいのある商店街づくりについて、皆で話し合いました。今後「住民の住民による住民のための城南づくり」を推進します。

そして2月5日は、紺屋町地元学「歩いて宝探し」ワークショップ参加。町内外の参加者と紺屋町の歴史を学び、町内散策しながらお宝探し、その後皆で魅力や未来の紺屋町の絵を描

2012.03.15 Thursday

## 岩手県高度救命救急センター

3月15日朝7:00〜会派勉強会をしました。岩手医大救急医学講座教授で、今春から岩手県で運行されるドクターヘリの責任者である遠藤重厚氏から講話を頂きました。



会派勉強会

遠藤先生が中心になって運営する岩手県高度救命救急センターは想定される救急医療対策に次々と取り組み、県民の命を守るために様々な救急の場面に對する組織体制を拡充しウィングを広げ続け進

化しています。最近では聞かれなくなりましたが、救急車に乗ったものの受け入れを断られ患者さんが搬送途中で亡くなるケースもありました。しかし高度

きました。私はレンガ造りの岩手銀行中の橋支店を夏の間ビアホールにしようという提案。すると女の子が浴衣でビアホールで飲んで中津川を散歩したいという提案。また市役所裏の杉はクリスマスツリーにもってこい(笑)12月はクリスマスツリーを見ながら雪の中津川を散歩しよう!という提案。色々な魅力が溢れる紺屋町になりそうです。



参加者の一人の方は、「川崎から転勤で盛岡に引っ越し、当初は駅付近に住んでいたが、紺屋町が好きで好きでたまらず駅付近から引っ越してきた。転勤でいろんな町に住んだけど、もりおかが一番好き。」と笑顔で話してくれました。そこに住む人がまちの魅力を発見し、愛し始めることが何よりも大切。

まちが動き始めている。そこに住む一人一人によって、ゆつくりと動き始めている。小さな動きが、やがて奥の深い魅力を育む……必ず!

救命救急センターの実績を見ると、重症患者で医療機関に受入れの紹介を行った回数が4回以上の割合は全国平均3.6%⇓岩手県0.8%重症患者で現場到着から現場出発までの時間が30分以上の割合は全国平均4.1%⇓岩手県1.7%(平成20年実績)

この様に岩手県高度救命救急センターは、全国でもトップクラスの内容であり、全国に誇れる先進救命救急医療チームです。また県土の広い岩手県にとってドクターヘリの導入は心強い限りです。維持費は年間約2億円かかりますが、高齢化社会先進県の岩手にとってその役割は大きいと考えられます。

県民の命を守ってくれている医療関係者の皆様に感謝し、私達もその維持とさらなる充実に向け努力していきます。



今春から運行された「ドクターヘリ」

## 常思旬感

「常思旬感」とは私の造語です。常に思い、旬(季節)に感じる事を徒然なるままに書くコーナーです。お楽しみください。

6月23日山形に行ってきました。高3の娘が所属する弓道部の高校総体東北大会に出場しました。(残念ながら娘は当日試合には出場はできませんでしたが)入学以来朝7時からの練習と放課後8時までの練習には毎日励みました。

同期の仲間とインターハイ出場を目標に頑張っていたのですが、岩手県高体連決勝リーグでは福岡高校と勝敗数と総的中数で並ぶ大接戦でしたが、予選からの的中数で準優勝(1本に泣きました)。東北大会には東北チャンピオンを目標に出場しましたが、決勝で県大会では勝っていた不來方高校にまたもや1本差で惜敗しました。朝から晩まで土曜も日曜もクラブ活動、盆と正月だけが休みだったクラブ中心の生活は幕を閉じました。

娘は小学校で合唱部、中学校で卓球部、高校で弓道部と最初から最後までクラブ活動を全うしてきました。小学校低学年までは、おとなしく、自分を主張することのない子でしたがクラブ活動が娘を変え、粘り強く一つのことに取り組むようになりました。本人も努力しましたが、私は共に活動した友人の存在が大きいと思っています。同じ目標を共有し、苦しい時は励ましあい、嬉しい時は讃えあう。勝利に向かい互いに意見し技術を磨く。様々な場面で切磋琢磨を繰り返して、欠かす事のできない存在として認め合い深い絆が醸成され、チームワークが作られます。それ故に娘は続けることができたのだと思います。

県大会、東北大会と優勝には1本及びはしませんでした。悔しさを感じた事も、スポーツの素晴らしさ、そしてクラブ活動の意義だと思えます。人生という長い道を共に歩み悲しみ乗り越え喜びを分かち合える仲間を得、そしてこの経験をバネにいつの日か挑むであろう大きな夢・目標に向かう勇気を培った県高体連、そして東北大会だ。今日は土曜日、数名のクラブの仲間が我が家に来て一緒に焼肉を食べ、5時間も楽しく笑いおしゃべりをしていきました。ありがたう仲間たち! ありがたう3年間! ありがたう弓道部!



高校総体東北大会